

ギャップに目を向ける

高等教育機関がインフラと未来とのギャップを埋める方法

ハイブリッド学習の課題

革新的な教育方法や学習方法がますます注目され、大学は新しい時代に突入していますが、既存のインフラはその役割を果たせているのでしょうか？

ハイブリッド学習は学生が望む学習方法として定着しており、ハイブリッドモデルへの需要は高まり続けています。

2026年には、29% の学生が対面授業とオンライン授業の組み合わせを希望しており、その割合は2023年の22% から増加しています。

しかし、多くの教育機関は、そのために設計されていない学習スペースやテクノロジー環境でこうした需要に応えるのに苦労しています。高等教育の現場では、このようなミスマッチが学生や教員の体験に影響を及ぼしています。





1 / 3

の教員

および



1 / 4

の学生

が、AV テクノロジーの不備を理由に所属機関を離れることを検討したことがあります。*

複雑なテクノロジーや質の低いオーディオは、入学者数や定着率に悪影響を及ぼす可能性があります。信頼性が高く管理が容易なテクノロジーは、これら両方の領域で役に立ち、IT チームの負担を軽減します。



51%

の学生

が、ハイブリッドコースの有無が入学先を選ぶ要因になると回答しています。*

高等教育機関には、キャンパスの変化に合わせた明確なテクノロジー戦略が必要です。ハイブリッド学習の課題は、IT リーダーが今すぐ確認できる3つのギャップに分類されます。

注意すべき3つのギャップ



ハイブリッドな指導

すべての学生とすべての教育者が、どの建物にいても質の高いハイブリッドな指導に参加できますか？



コンテンツ配信

学習スペースからのコンテンツは、実際にすべての学生が求めている時間と形式で配信されていますか？



スペースの使用状況

教育機関は、スペースが実際にどのように使用されているのかを把握していますか？それともスペースの予定しか把握していませんか？

これらのギャップはそれぞれ問いが異なりますが、最終的には**インフラが一貫したテクノロジーエコシステムに支えられる1つのシステムとして機能しているのか、あるいは短期的な修正の寄せ集めになっているのか**という点に行き着きます。

ギャップ1：ハイブリッド指導



50%

の教員が、過度に複雑なハードウェアや画質と音質の低さに起因する日または週単位の課題を報告しています。*

教育と学習の体験は、どの部屋にいるかによって左右されるべきではありませんが、ハイブリッドな教室ではそうなることが少なくありません。リモートの学生が聞き取りに苦労し、建物ごとにテクノロジーの動作が異なる中、IT サポートチケットが山積しています。このようなギャップを埋めるには、一貫した体験が得られるようにスペースを整備する必要があります。

自問してみましょう

キャンパス内のすべての部屋で会議参加のプロセスは統一されていますか？

教員が不慣れな設定について学ぶ中でどれだけの指導時間が失われていますか？

リモートの学生は、どこに座っていてもすべての発言者の姿と声をクリアに捉えられますか？

テクノロジーソリューション



Rally Bar 2

- 教室のすべての座席を捉える広い視野角を備えた一体型ビデオバー。自動プロビジョニングとシンプルな取り付けを特徴としており、迅速な導入が可能です
- AI 搭載の自動フレーミング機能で発言者を常に中央に捉えます。講師が歩き回っていても立ち止まっていても議論の内容が明確に伝わり、より信頼性が高くストレスのない指導体験を実現できます



Rally System 2 Pro

- 標準的なビデオバーより柔軟なカバレッジを必要とする教室、講義室、オーバーフロースペース、大規模なキャンパス会議室向けの高品質なビデオとオーディオを提供します
- リモート管理が可能なモジュール式設計で導入を簡素化します。すべての参加者にクリアな音声と映像を届け、すべての参加者が確実に関与できるようにします



MeetUp 2

- 小さなハドルスペース向けに設計された超広角レンズですべての参加者をフレーム内に収めます
- 内蔵の3つのマイクアレイがリモートの学生や共同作業者にクリアな音声を届けます

テクノロジーソリューション



Tap IP 2

- ワンタッチコントロールで授業や会議を開始し、シンプルで一貫したユーザー体験を提供します
- 自習室や会議スペース全体で使い慣れたインターフェースを提供し、トレーニングやサポートの必要性を減らします



Rally マイクポッド

- 講義室やいびつな形の部屋の集音範囲を広げる拡張マイクポッド
- ポッドの追加によってより大会議室にも対応可能

ギャップ2：コンテンツ配信



66%

の教員が、コースで使用するツールにアクセスする際の障壁として、ログインの課題を報告しています。*

コンテンツ配信におけるギャップは、コース教材がすべての学生に効果的に届いているかどうかという点にあります。たとえば、ホワイトボードのデモビデオでは映り込みで見えにくくなることがあり、ビデオ品質が低いとバーチャルで参加している学生には、表示される物理モデルの細部が平坦に見えてしまうことがあります。このようなギャップを埋めるには、コンテンツをクリアに捉え、シームレスに共有する柔軟なテクノロジーが必要です。

自問してみましょう

その場に参加していた場合でも、後から確認する場合でも、すべての学生が同じコンテンツに簡単にアクセスできていますか？

講義のキャプチャはどの部屋でも一貫していますか？

学生が画面で見ているものは、実際に部屋で示されているものと一致していますか？

テクノロジーソリューション



Scribe

- 物理的なホワイトボードを読み取るように作られた AI 搭載カメラ。リモートの学生は、映り込みのある画像や色褪せた画像ではなく、クリアなコンテンツを見ることができます
- 透明化効果により、講師が前に立っていてもボードが見えるようになります



Rally Camera Streamline Kit

- 毎回クリアで魅力的なコンテンツを実現するプリセットビューを備えた、包括的な USB PTZ ビデオソリューション
- あらゆるタイプの学習スペースに適合する柔軟な取り付けとシームレスな統合



Reach

- アートプロジェクト、デモ、実験手順などの非デジタルコンテンツの素晴らしいクローズアップを提供する調整可能なコンテンツカメラ
- 教育機関がすでに使用しているビデオおよびストリーミングプラットフォームで USB-C 経由のプラグ&プレイに対応

ギャップ3：スペースの利用状況



50%

の IT リーダーが、リモート管理によってサポートの必要性が減ると回答しています。*

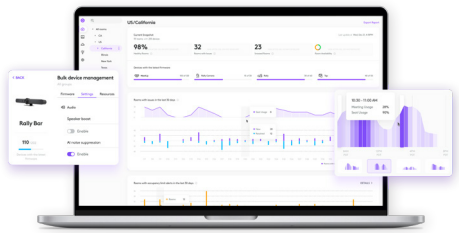
スケジューリングデータと利用データは同じではありません。教育機関には、部屋が書類上で予約されているだけなのか、実際に使用されているのかを判断する方法が必要です。

そのような盲点は、一度に2つの問題を引き起こします。単一目的の部屋は、需要が予期せず他へシフトすると空いたままになるうえ、スペースが実際にどのように使用されているのかが見えなくなります。どちらの問題も、キャンパスのインフラを学習者のニーズに適応させるのを難しくします。

自問してみましょう

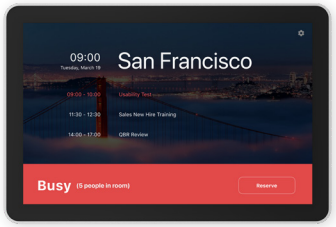
- 特定の日に空いている部屋の数はわかりますか？
- 実際の利用データを持っていますか？それともスケジューリングカレンダーのみですか？
- 予算委員会に対し、見積もりではなく証拠に基づきスペースの専有面積を示せていますか？

テクノロジーソリューション



Sync

- 会議を実行している同じビデオデバイスから占有データと使用データを取得するため、AV 投資がスペース計画センサーネットワークとしても機能します
- 部屋ごとの使用状況レポートにより、数週間または学期を通じてスペースがどのように機能しているのかが示されます



Tap Scheduler 2

- クリアで視認性の高いスケジューリングディスプレイにより、教室、講義室、自習室、会議スペースの予約を簡素化します
- 視認性の高い空き状況表示と柔軟な導入オプションにより、部屋の利用率を向上させ、スケジューリングにおける競合を減らします



Spot

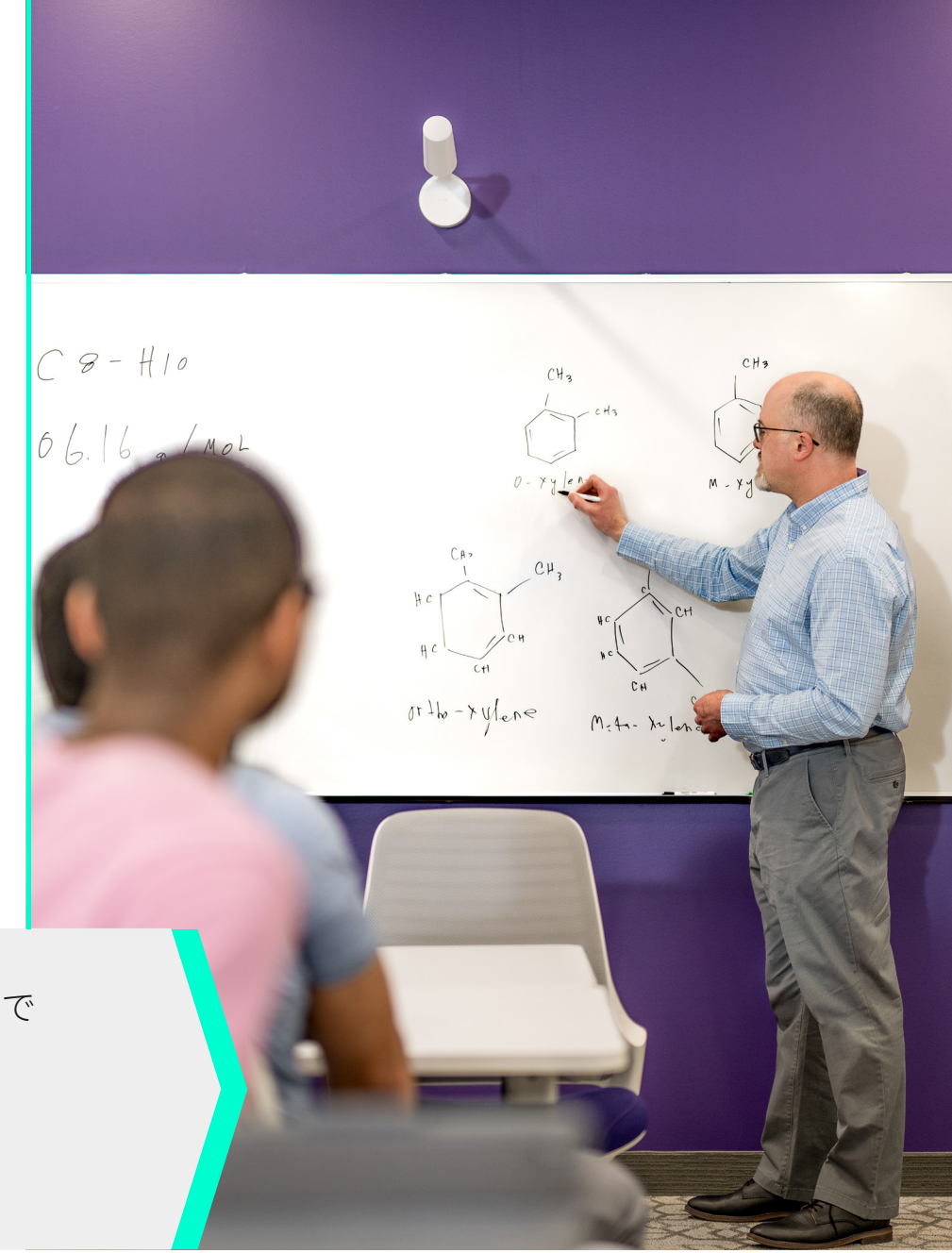
- 部屋の利用状況、空気の質、環境条件を監視し、より健全で効率的な学習およびコラボレーションスペースをサポートします
- 部屋の管理、エネルギー使用、キャンパス運営の最適化に役立つ、実用的なワークスペースの利用状況に関するインサイトを提供します

場所を問わない学習を実現するために強力なシステムを構築

スペース用、コンテンツ用、利用状況データ収集用など、個別のソリューションでそれぞれのギャップを埋めたくなるものですが、継ぎはぎだらけのシステムは拡張性やサポート性に乏しく、数年で時代遅れになることが少なくありません。

こうしたギャップを完全に解消するために、IT リーダーはモダナイゼーションを1つのつながりのある意思決定として扱うべきです。指導、コンテンツの配信、スペースの運用が単一の拡張可能なシステムで行われると、誰もが学習できるようになります。その結果、長期にわたる維持管理がより容易なテクノロジーが生まれます。

キャンパスはすでに変化しており、
インフラがそうした変化に対応できるようにすることが重要です。



準備はよろしいですか？ロジクール教育向け製品販売部門までお問い合わせください。

Education@logicool.co.jp
www.logicool.co.jp/education

logicool for education

*ロジクール/AVIXAによる高等教育におけるAVインフラに関する調査

© 2026 Logitech, Logicool. All rights reserved.株式会社ロジクールは、Logitech Group の日本地域担当の日本法人です。Logicool、Logi およびそれらのロゴはLogitech Europe S.A. または米国およびその他の国における関連会社の登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。本書に含まれる製品、価格設定および機能情報は、予告なく変更される場合があります。